

奥出雲町立小学校再編方針を策定

学校再編は子どもたちの未来、また、小学校は旧村による設立だったことから、地域にも関わる大切な計画です。ぜひご一読ください。

奥出雲町教育委員会では、小学校再編の具体的な方針・計画である「奥出雲町立小学校再編方針」を策定いたしました。

学校再編については、2009年に町学校再編基本計画検討委員会による「町学校再編基本計画」の策定および再編の考え方を町長へ報告した後、これまで具体的な方針を示していませんでした。

しかし、今後の児童数減少の傾向は変わらず、さらなる減少への対応、また、保護者アンケートの結果からも、児童数の減少に対する懸念、減少に対応した学校再編を望む声が多く、児童が健やかに育まれる教育環境を維持するため、今後の学校のあり方として、町教育委員会、町総合教育会議を経て、本年3月に策定したものです。

なお、今回策定した再編方針につきましては、本年5月7月に全校区で保護者、就学前の子どもの保護者、地域住民、学校関係者の皆さまなどに対する説明会を開催し、その後、地域ごとに懇談会を開催し、ご意見をいただきながら議論、協議を行い、集約をしながらとりまとめをしていきます。

【仁多地域1校、横田地域1校に再編した場合の児童数推計】

(小学校1,2年生は30人学級、4~6年生は35人学級編成想定)

仁多地域	3年後(2022年)		9年後(2028年)	
	児童	学級	児童	学級
1年	44	2	33	2
2年	50	2	36	2
3年	46	2	38	2
4年	44	2	41	2
5年	48	2	43	2
6年	48	2	35	1
合計	280人	12	226	11

横田地域	3年後(2022年)		9年後(2028年)	
	児童	学級	児童	学級
1年	24	1	23	1
2年	32	2	24	1
3年	33	1	25	1
4年	35	1	26	1
5年	34	1	18	1
6年	33	1	37	2
合計	191人	7	153	7

【再編にあたり配慮すべき事項】

子どもたちは人間関係や学習環境が大きく変わることになるため、事前の交流活動や再編後のきめ細かな指導、地域と密接な関係の中で行われている特色ある教育活動の継承、遠距離通学となる子どもたちの負担を考慮した適切な通学支援策の実施および地域住民の皆さんと一緒に再編後の施設・跡地の活用方法の検討を行います。

【町内小学校の児童数の推移および今後の推計】

	2006	2018	2023	2028
布勢小	86	61	54	40
三成小	147	91	92	94
高尾小	17	9	5	0
亀嵩小	49	32	38	28
高田小	23			
阿井小	100	61	54	48
三沢小	32	22	24	16
鳥上小	50	33	18	13
横田小	169	112	91	81
八川小	86	47	48	28
馬木小	86	56	38	31
合計	845	524	462	379

【答申をふまえた学校再編の考え方(2009年公表)】

- ・全校児童数15名以下の極小規模校は、早急に学校再編をする必要がある。
- ・複式学級のある小規模校についても、今後の児童数の減少や社会情勢の変化などにより、望ましい教育環境を確保するために、学校の再編をする必要がある。

【保護者アンケートの結果(抜粋)(2017年10~12月実施、回答数1065通)】

小学校1校の1学年あたりの人数はどのくらいが望ましいと考えますか。

1学年2人程度	0.1%
1学年5人程度	1.1%
1学年10人程度	15.8%
1学年20人程度	61.9%
1学年40人程度	12.7%
1学年60人程度	7.2%

小学校数について。将来的にはどうすればよいとお考えですか。

2校程度に統合すべき	37.8%
複式学級が解消されるように段階的に統合すべき	46.3%
全校児童数が10人程度までは残すべき	10.8%
何人であっても残すべき	3.1%

【奥出雲町の目指す学校像・学校教育】

小学校の適正規模について、文部科学省の手引きでは1学年2学級以上(全校12学級以上)が望ましいとしています。奥出雲町全体の児童数の状況、さらなる少子化や校区の広さ、保護者アンケートの結果を考慮しつつ、極小規模校、複式学級、小規模校の課題に対応するため、「1学年20人以上の学校を適正規模校」とします。

多様な考えに触れるなど活力ある学習活動や集団活動のできる学校、教職員の適切な配置のもと、充実した学習指導や個への対応が行われる学校、安全安心な学校環境及び充実した設備の中で多様な学習活動が展開できる学校を目指します。

また、「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」はもとより、予測のつかない社会に対応できる表現力等を備え、奥出雲で育ったことを誇りに、奥出雲への思いを持ち続ける子を育てていきます。

【小学校再編の具体的方針】

- ・三成小、横田小以外の8校において、複式学級や一人学年、同性が一人のみの学年の可能性があり、**学校再編は町内すべての小学校を対象とします。**
- ・今後の児童数見込み、再編後の児童数見込みを考慮し、**小学校10校を2校(仁多中学校区1校、横田中学校区1校)に再編します。**
- ・**再編後の学校位置**は、中学校区の中心に位置し、規模的に大きい(仁多中隣地移転後の)三成小学校、横田小学校の場所とします。
- ・**再編後の学校**は地元説明、協議、再編準備に必要な期間をとるため、**3年後の2022年4月の開校とします。**

【今後の進め方】

- ・本年5月7月、校区ごとに保護者、就学前の子どもの保護者、地域住民、学校関係者の皆さまなどに対する説明会を開催し、その後、懇談会を設け、ご意見をいただきながら議論、協議を行い、2020年7月までに結論への集約をしながらとりまとめをします。
- ・懇談会において、児童の保護者および就学前の子どもの保護者の意向については、特に配慮します。
- ・再編賛成の場合は、再編準備委員会に移行し、学校再編に向けた具体的な協議、準備を行います。
- ・2021年度は、複式の教育課程解消などへの教職員の配置、学校間の協議、再編準備委員会の協議を行います。
- ・高尾小学校については、2021年3月閉校、4月三成小学校との再編を保護者、地域の皆さまに説明しており、協議を進めます。

【中学校の再編について】

小学校再編の方向性が固まりしだい、横田中学校が全学年1クラスとなる2025年度を見据え、計画的に検討するものとなります。

※方針全文については、奥出雲町ホームページに掲載しております。

三成小学校の仁多中学校隣地への移転改築工事が始まります

三成小学校は、教室棟の耐震力不足、特別教室数の不足、動線の悪さ、危機管理等の課題の解決、また、将来的な小中一貫教育や学校再編等、将来を見通した施設整備計画が求められる中、仁多中学校隣地への移転改築の設計を昨年度行いました。本年度からは、2年間の計画で建設工事を行い、2020年度の完成を目指します。

新校舎建設の概要(予定)

- 鉄筋コンクリート造3階建 3,200㎡
- 想定学校規模
現状8学級 6学級+特別支援2学級
最大15学級 12学級+特別支援3学級
- 総事業費 14.1億円(解体工事含む)

今後のスケジュール(予定)

- 2019年度 新校舎建設工事、園路・駐車場整備工事(～20年度)
- 2020年度 仁多中体育館等改修工事
- 2021年4月 新校舎での授業開始
- 2021年度 現校舎解体工事

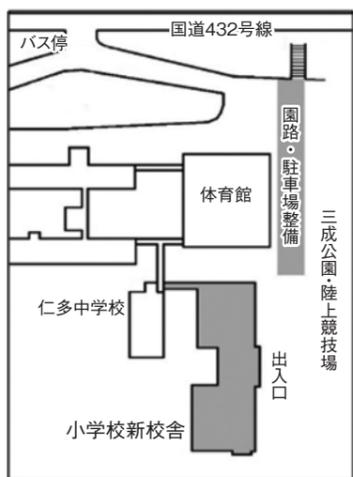
※通学方法や放課後児童クラブ等の検討課題について、保護者等との協議を速やかに実施します。
※跡地活用について、小さな拠点づくりワークショップ等と連携しながら協議を進めていきます。



新校舎正面イメージ



新校舎2階平面図



新校舎の位置

※複式学級・・・2つの学年を一緒にして、1人の先生が担任を受け持つ学級のこと。小学1・2年生では合計人数8人以下のとき、3・4年生と5・6年生では合計人数が16人以下のとき複式学級となります。